

温かい 繋がる 支え合う 学び合う

山梨 YMCA 岡島デイサービスセンター

ぶどうの木

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネによる福音書15章5節



〒400-0031

甲府市丸の内1-21-26

甲斐物産ビル7F

Tel・Fax:055-235-5021

e-mail:grape@alto.ocn.ne.jp

ぶどうの木のご利用につきましては上記まで御相談ください。

ぶどうの木は開所3周年を迎えました

—主にあって共に生きる喜びに感謝—

公財) 山梨YMCA理事長・大澤 英二

山梨YMCA総主事・露木 淳司



7月が来ると私どもの山梨YMCA岡島デイサービスセンター「ぶどうの木」が誕生して満3年を迎えます。難産というわけではありませんでしたが、いくつかの問題を克服しながら今日のぶどうの木に成長出来たことは、本当に有難く感謝の言葉を知りません。と言う

のは「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である」という聖書の言葉から命名されているこのセンターが、この山梨の県都甲府市の中心街に誕生したのですから。

日常の運営にお働きの専任のスタッフの方々、様々な分野のボランティアの方々、浄財をご寄付してくださった方々、施設を提供してくださった方々、祈りに覚えて支援してくださった方々、見えないところで支えて下さっている方々、数え切れないかたがたのお力によって成り立っているこのセンターが、これからますます健全に育てられていくことを切に願ひながら3周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。

ぶどうの木をはじめ訪れる人には、誰が利用者で誰がスタッフで誰がボランティアなのか、全くわからないと思います。いつも笑い声が絶えず、本当に楽しそうで自由な雰囲気にも包まれています。そこには愛と奉仕の精神にあふれるキリストの香りが実に自然に漂っています。開設以来早くも3年が経ちました。高齢者事業を立ち上げるという決断は、70周年の山梨YMCAにおいては歴史的な事業転換でした。資金面や施設面、運営組織面など不安でいっぱいでしたが、関係各位のご尽力を賜り、多くの募金やボランティアのご支援を賜り、短期間で実にYMCAらしい全国のYMCA関係者にも自慢できるデイサービスセンターが誕生しました。

山梨YMCAは今、FOR ALLの精神で、世代、性別、国籍、障がいの有無を問わず、地域に暮らすすべての人々が共に交わり、互いに顔の見える関係を作れるコミュニティセンターになることを目指しています。折しも、現在のYMCA会館は道路拡幅計画の影響で、建て替え、または移転の決断を迫られています。新会館建設が可能になった暁には幼子とお年寄りが同じ建物の中で共に過ごせる癒やしの空間を創造したいと願っています。

ぶどうの木の三年間

三年前の7月、山梨YMCAで「何故高齢者事業を??」しかも「街の真中で??」「ビルの中で??」と疑問符ばかりの出発でした。しかもスタッフもボランティアも第一線での社会活動を終えた者が中心です。異例づくめの出発にYMCA関係者のみならず、資金援助等で支援してくださった方々の心配も心に留めず今になって気付く愚かな私です。でも導いてくださる主イエスを信じ、支えてくださる皆様を信じて直走った3年間でした。お詫び申し上げますと共に、感謝のほか言葉が見つかりません。

この3年間にご利用いただいた実人数は54名、以外に少ないのです。一回限りのご利用の方もりましたが、多くの方は続けてご利用いただいている結果だと思えます。延べ利用者数は5250名、最初に登録して下さった方は今も週三回ご利用中です。現在の利用者実人数は27名、一日平均10.7名の方がご利用です。しかし、残念ながらこの三年間に9名の方を天国にお送りしました。最期近くまでご利用いただき、今もスタッフの心に残る様々な思い出を残して逝った方々に感謝でいっぱいです。

ぶどうの木が誇れるケアの特徴は、お一人毎にお湯を入れ替えての入浴介助、どんなに体の不自由な方でも機械浴では

なく、一人一人を援助しながら入浴して頂くことです。またアロマ足浴と下肢のマッサージも大人気のケアです。

「時間が大変、経費が嵩む」と、止める私の言葉には応えず、「気持がよくて最高」と言ってくさるご利用者の声のみに反応するスタッフを止めることもできない私ですが、こころのどこかでスタッフを誇りに思っているのです。しかし、何よりは、ヒヤリハットすることは幾度かありましたが、すべて大事にはいたらず、救急車にお世話になることもなく、無事故で過ごせたことでしょう。今、ご利用者の平均年齢86歳、足腰の衰えは少しずつ進行することは止むおえない事実ですから細心の注意を払っての毎日です。特に介護度の高い方が多く(35%~40%)ご利用くださっているのですから。これらのスタッフのケアを陰で支えてくださっているのが、ボランティアの皆様です。この3年間に35名の方に5000時間を超えるご奉仕をいただきました。時間には現すことのできない奉仕の数々(野菜作り、おやつ作り、手芸品の提供、パソコン指導等)にも感謝の毎日です。四年目の歩みも笑い声の絶えない毎日であることを願ひながら、皆でぶどうの木に連なってまいりたいと思います。

管理者 小野 興子

アンのことば

看護師 長谷部 たえ子

「曲がり角を曲がったときに、何があるかはわからないの。でも、きっと、一番よいものにちがいないとおもうの。」この「赤毛のアン」のことばは、私と「ぶどうの木」を結び付けてくれる心に残ることばです。駐車場から舞鶴城公園のお濠を通り、角を曲がり、エレベーターで7階まで乗ると「ぶどうの木」があります。

アンのことばは、その人その人の状況や、人生の節目ふし目での考え方で解釈が異なるかと思えます。曲がり角を曲がった「ぶどうの木」で利用者さん達と出会い、そこから学び、生きる力をいただいています。そんな出会いの中で、歩行が少しづつらそうと、笑顔がステキなAさんは、いくつかの病気を乗り越え、現在も治療を続けている方です。Aさんが、「治療はつらいよ。ぶどうの木に来るのもつらい日もあ

るけど、がんばって来るさ」と、しなやかな強さをお持ちです。同じことを繰り返しお話しするBさんは、「私は今まで、何でも一生懸命やってきた。人と比べるとできないこともあるけど、自分には負けないよ」と、今までのBさんの生き方が見える力強いことばで話してくれています。ぶどうの木にはボランティアさん達が毎日1～2名来てくださいます。ボランティアさんたちは、お宅にあるお花や、手作りの野菜をお持ちになり、また利用者さん達と一緒に交流するなど、さりげないやさしさに感動しています。

人生の大先輩の方々に教えていただくことばかりですが、「ぶどうの木」のモットーである、「一人ひとりに寄り添うケア、支えあうケア、学びあうケア」の実践に努めていきたいと思えます。

命ある限り頑張っ

河野 文江 (ご利用者・伊藤水野様)

今年97歳の誕生日を迎えることができた母が縁あって“ぶどうの木”さんにお世話になり三年が経とうとしています。

一人で生活していた母が少しずつ体の不自由さを感じ始め、体力も落ちて、ペースメーカーのお世話になりながらぶどうの木さんの職員に支えられ、今では毎日を元気に過ごさせていただいております。季節を感じられる行事、家では決まらなかった歌をうたうこと、又手足を動かすリハビリ等、毎回楽しい時を過ごさせていただき“生きる”ということを実感しているように見えます。しかし、最近では自分の体が思うように動かずに悩んでいる姿を見かける時もあります。元気に動けた時のことを思い出し、少しでも自分でできることをしなければと思っているようです。この先どれだけ自分の足で歩けるのか、一人で食事ができるのか、一人でトイレができるのかと考えるときがありませんが、職員のお力をお借りしながら精一杯生きて欲しいと思っています。

まだまだお手を煩わせることがたくさん起こるかと思えますが、命ある限り、元気でいられる限り頑張っってほしいと願っています。本人は元より、私どもの意向までもくんでいただいております事に本当に感謝しております。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ボランティアさん便り④

ボランティアをして、逆に活かされた私

斉木 益美

長期療養後に夫が旅立って一人暮らしになった私は、一年間全く放心状態でした。ある日、友人の来宅で、ぶどうの木のボランティアのお話。今度の「ぶどうの木クリスマス会」に参加しませんかと誘いを受け、少し不安と緊張しながら伺いました。計らずもドアの近くで小野さんにお会いできました。会場内にはお知り合いのOさんと、また以前の職場でお世話になったYさんが車椅子で参加されていました。私でも役に立つならと早速伺いました。開設して2年と聞いていた施設内には、利用者の方々と職員の皆さんの和やかな雰囲気と笑顔。生活の場としての椅子に、座布団が災害時の頭巾にと工夫されていました。ボランティアをさせて頂いて1年6ヶ月が経ちました。ボランティアをする動機と周りの方々のご指導がなかったら、こんなに張りのある「時」は私にはありませんでした。ボランティアをさせて頂いて私は活かされました。一度はお話してみたかった小野さんにお会いできた「幸」も嬉しいことでした。ぶどうの木の皆様、ボランティアの皆様ありがとうございます。

ぶどうの木ギャラリー

4月4日～5月25日まで絵手紙万葉の会・甲府仲塾教室の6名9点の味わい深い作品を展示させていただきました。



さくらんぼ狩り



6月2日、17日：2回に渡り利用者さんは、南アルプス市のさくらんぼ園に行きました。その美しさ美味しさに皆の目は子どものように輝いていました。

花の日の慰問

5月27日：山梨英和学院中学生の訪問があり、美しい花と優しい手紙、歌のプレゼントをいただきました。

6月7日：山梨英和ダグラスこども園の子ども達が訪問、利用者の皆さんは目を細めて迎えました。



チャリティーラン ぶどうの木チームが2位

6月11日：恒例のYMCA主催のチャリティーランにぶどうの木から参加(代走)、54チーム中堂々の2位でした。